

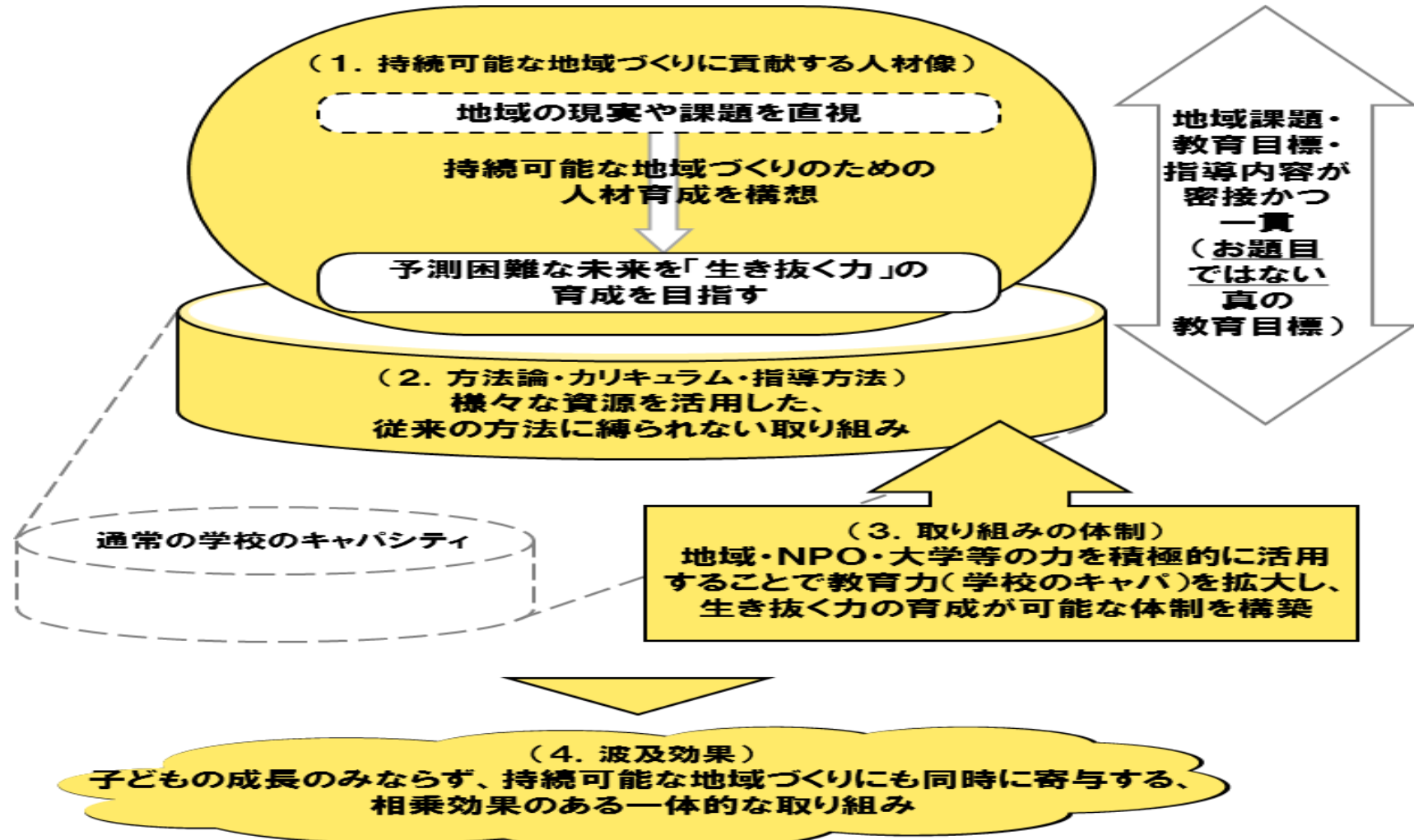
各地の「創造的復興教育」事例から導き出される主要要素

○ 価値観の転換...旧に復するのではなく、未来志向で展開。

震災・原発事故からの復興は、これまでの知識や経験だけでは対応することが困難であり、教育も復旧ではなく、未来志向で展開することが必要。

○ 東北、日本の復興の行方は、最終的には教育・学びにかかっている。

長期間の復興を成し遂げるためには、子供たちの課題を解決していける力を育むことが教育の責任



21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)

平成8年7月19日 中央教育審議会

我々はこれからの子供たちに必要となるのは、いかに社会が変化しようとして、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性であると考えた。たくましく生きるための健康や体力が不可欠であることは言うまでもない。我々は、こうした資質や能力を、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称することとし、これらをバランスよくはぐくんでいくことが重要であると考えた。(中略)「生きる力」をはぐくむに当たっては、特に次のような視点が重要と考える。

- (a) 学校・家庭・地域社会の連携と家庭や地域社会における教育の充実
- (b) 子供たちの生活体験・自然体験等の機会の増加
- (c) 生きる力の育成を重視した学校教育の展開・・・

東北の創造的復興教育の方向性と合致

震災前の東北の姿と、全国の地域の将来の姿

各県沿岸市町村の高齢化率

全国平均高齢化率(%)	23.1
-------------	------

岩手県	高齢化率(%)
洋野町	30.5
久慈市	26.4
野田村	30.1
普代村	31.5
田野畑村	33.9
岩泉町	37.8
宮古市	30.9
山田町	31.8
大槌町	32.4
釜石市	34.8
大船渡市	30.9
陸前高田市	34.9

宮城県	高齢化率(%)
気仙沼市	30.8
南三陸町	30.1
女川町	33.5
石巻市	27.3
東松島市	23.2
松島町	30.9
利府町	16.3
塩竈市	27.5
七ヶ浜町	21.6
多賀城市	18.4
仙台市	18.6
名取市	19.1
岩沼市	19.8
亘理町	23.4
山元町	31.6

福島県	高齢化率(%)
新地町	26.9
相馬市	25.5
南相馬市	26.6
浪江町	26.7
双葉町	27.1
大熊町	21.0
富岡町	21.1
楡葉町	25.9
広野町	23.8
いわき市	25.1

平成22年国勢調査 人口等基本集計結果

震災前の東北の姿と、全国の地域の将来の姿

我が国を取り巻く危機的状況

←..... 相互に関連→

○少子化・高齢化の進展

- ・生産年齢人口の減少(2060年には、我が国の人口は2010年比約3割減の約9千万人まで減少。そのうち4割が65歳以上の高齢者。)
- ・経済規模縮小、税収減、社会保障費の拡大
- **社会全体の活力低下**

○グローバル化の進展

- ・人・モノ・金・情報等の流動化
- ・「知識基盤社会」の本格的到来
- ・新興国の台頭等による国際競争の激化
- ・生産拠点の海外移転による産業空洞化
- **我が国の国際的な存在感の低下**

○雇用環境の変容

- ・終身雇用・年功序列等の変容
- ・企業内教育による人材育成機能の低下
- **失業率、非正規雇用の増加**

東日本大震災により一層の顕在化・加速化

○地域社会、家族の変容

- ・地域社会等のつながりや支え合いによるセーフティネット機能の低下
- ・価値観・ライフスタイルの多様化
- **個々人の孤立化、規範意識の低下**

○格差の再生産・固定化

- ・経済格差の進行→教育格差→教育格差の再生産・固定化(同一世代内、世代間)
- **一人一人の意欲減退、社会の不安定化**

○地球規模の課題への対応

- ・環境問題、食料・エネルギー問題、民族・宗教紛争など様々な地球規模の課題に直面しており、かつてのような物質的豊かさのみの追求という視点から脱却し、持続可能な社会の構築に向けて取り組んでいくことが必要。

【震災の教訓(危機打開に向けた手がかり)】

- 諦めず、状況を的確に捉え自ら考え行動する力
- イノベーションなど未来志向の復興、社会づくり
- 安心して必要な力を身に付けられる環境
- 人々や地域間、各国間に存在するつながり、人と自然との共生の重要性

教育行政の4つの基本的方向性

1. 社会を生き抜く力の養成

～多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力～

2. 未来への飛躍を実現する人材の養成

～変化や新たな価値を主導・創造し、社会の各分野を牽引していく人材～

3. 学びのセーフティネットの構築

～誰もがアクセスできる多様な学習機会を～

4. 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

～社会が人を育み、人が社会をつくる好循環～

我が国を取り巻く危機的状況

(東日本大震災により一層の顕在化・加速化)

一方で… 【我が国の様々な強み】

- 多様な文化・芸術や優れた感性
- 科学技術, 「ものづくり」の基盤技術
- 勤勉性・協調性, 思いやりの心
- 基礎的な知識技能の平均レベルの高さ
- 人の絆

震災の
教訓

第1期
計画の
評価

今後の
社会の
方向性

創造

自立・協働を通じて
更なる新たな価値を創
造していくことのできる
生涯学習社会

自立

一人一人が多様な
個性・能力を伸ばし、
充実した人生を主体的
に切り開いていくこと
のできる生涯学習社会

協働

個人や社会の多様性
を尊重し、それぞれの
強みを生かして、ともに
支え合い、高め合い、
社会に参画すること
のできる生涯学習社会

(震災からの教訓)

平成25年6月14日 閣議決定

我々は未曾有の震災体験を通じて、改めて我が国が直面する危機を打破するための手掛かり（教訓）を見いだすことができたと思われる。例えば、

- ・ 困難に直面しようとも、諦めることなく、状況を的確に捉えて自ら考え行動する力の重要性
 - ・ 新たな社会的・経済的価値を生み出すイノベーションの創造など、未来志向の復興・社会づくりを目指していくこと、そのための人材育成の重要性
 - ・ 居住地域や経済的理由など子ども・若者が置かれている環境にかかわらず、全ての子ども・若者が耐震化等の施された安全な学校施設で安心して必要な力を身に付けていける環境整備の重要性
 - ・ 人々や地域間、各国間に存在するつながり（絆）や、人と自然の共生の重要性
- などが挙げられる。

東北各地では、現地の人を中心にしながら、国内・国外からの多くの支援・協力を得つつ、復興に向けた新しい教育の創造の動きが始まっている。このような取組は今後の我が国の教育の在り方に大きな示唆を与えるものであり、こうした東北発の未来型教育モデルづくりを被災地だけでなく我が国全体で発展させていけるよう支援を行うことが求められる。

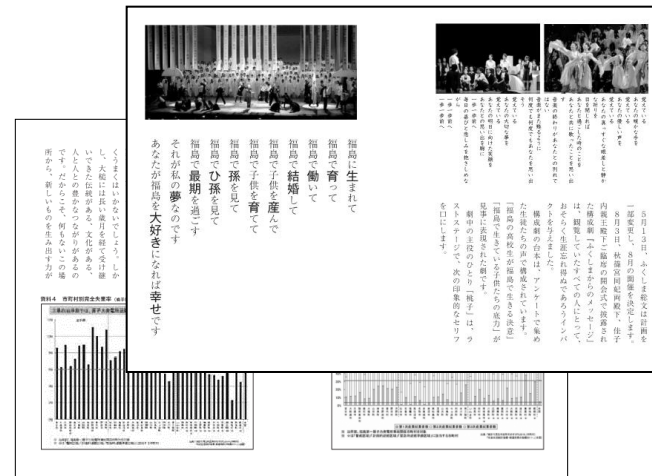
イベント的なものも含めて色々な支援が行われたことで、子供たちは従来の**教科学習**では、**なかなか分からなかった社会とのつながりを強く意識**するようになった。

カリキュラムの外で行われたことがすごい学びになり、社会で生き抜く力となっている。授業時数の確保など課題はあるが、**平時の学校教育に生かしていきたい。**

宮城県 高橋仁教育長
平成24年11月18日
創造的復興教育協会研究会

「希望の教育」

文部科学省創造的復興教育研究会 著
平成26年3月11日 発行（予定）
東洋館出版社



- 第1章 被災地の人々の証言に基づく「新たな学び」への予感
- 第2章 人々の悲しみを希望に変えた子供たち
— 素晴らしい実践の数々
- 第3章 東北発の未来型教育モデルの構造
- 第4章 日本各地の地域を再生する創造的復興教育
- 第5章 希望の教育 — 日本のこれからの教育を語る

売上は東北の創造的復興教育の取組へ寄付されます